

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900862		
法人名	有限会社シエナリゾート		
事業所名	グループホームことぶき ユニット I		
所在地	旭川市3条通21丁目1973番地10		
自己評価作成日	令和2年 10月 10日	評価結果市町村受理日	令和3年 1月 19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172900862-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和2年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事…献立から買い出しをし手作りの食事を提供している。敷地内でも家庭菜園と、農家さんからも旬の取れ立て野菜、果実を求めて、味付けや盛りつけに配慮している。
 外出行事…四季を通して外出の機会をもちながら、体力維持、五感刺激、気分転換に努めている(初詣・お花見・いちご狩り・公園散策・美瑛の丘ドライブ・秋の味覚果樹園など)
 施設内の行事…伝統行事は一年を通して行っている(おせち料理・七草粥・節分豆まき・雑祭・端午の節句・七夕飾り・敬老会・お彼岸おはぎ・十五夜飾り・冬至かぼちゃ・クリスマス会・誕生会など) 手伝い…朝のおしぼりたたみ・もやしの芽髭取り・果物の皮むき・漬物漬けなどの包丁作業も行って、入居前からの風習を大切にして、出来る事と出来ない事の見極めをしながら、日々を有意義に過ごせる様に支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は旭川市中心部に近い町の中に位置し、周囲は閑静な住宅地で、近くには学校や病院、スーパーマーケット等があり買い物や交通の便に恵まれた心地よい環境にある。建物は鉄筋2階建てで2ユニット(定員18名)からなり、ゆとりのある空間になっている。敷地内には菜園があり、収穫した旬の食材を使用した料理が食卓を飾り、利用者は四季を感じながら食事を楽しんでいる。近隣のふれあいサロンに通って地域の人々と交流したり、春には旭山公園やキトウシ森林公園での花見、初夏のいちご狩り、秋のリンゴ狩り、北彩都ガーデンや美瑛の丘へのドライブなど利用者の希望を把握し戸外に出かけられるように支援していたが今年度はコロナ禍で自粛している。また、毎朝体操を行って利用者の健康管理に努めている。コロナ禍の前まではボランティアの来訪があり、大正琴や、民謡、紙芝居等を楽しんでいた。認知症に対する専門知識を備えたスタッフが家庭的な雰囲気大切に、1人ひとりの個性に寄り添って笑顔で接している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職場に提示し、事業所で働く職員全員が理解し、意識しながら実践している	理念「私たちは1人ひとりに寄り添い、地域と交流しながら安心の暮らしを支えます」を事業所内の要所に掲示している。地域密着型サービスの意義を理解して毎朝のミーティングで共有し実践に繋げている。また年1回の社長講話では毎回理念についての話がある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事には積極的に参加し公民館活動にも入居者と共に参加している	町内会に加入し、地域行事や集会に積極的に参加し、近くの公民館の「ふれあいサロン」(地域包括支援センター主体)で、地域の人と親しく交流し関係づくりを積極的に行っていたが、コロナ禍で自粛している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践経験を活かし、認知症への理解、関わり方などのアドバイスをしている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域との取り組み内容や意見などを出し合って運営に反映している	運営推進会議は、年6回開催し、地域包括支援センター職員や地域住民、利用者家族、知見者等の参加を得ている。会議では事業所の活動状況や運営について意見交換を行い、サービスへ反映させるように努めている。今年はコロナで4月、6月は中止。8月、10月は書面で開催し、家族アンケートを実施した。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの研修参加において情報交換を共有し、連携を図っている	例年では地域包括支援センター主催の研修会に参加したり、運営推進会議に市担当職員が参加して情報交換を行っている他、行政の窓口で直接出向き、空き情報や利用者の状況を報告しながら、指導や助言を得て協力関係を築いていたが、コロナ禍で自粛している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	サービス指定基準における禁止行為は利用者が安全に過ごせる様、工夫を重ね実施している	「身体的拘束適正化のための研修計画書」に基づいた適正化委員会で利用者が安心安全に過ごせるよう研修を重ねている。拘束となる行為とそれに伴う弊害は全職員が理解し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。防犯上夜間の施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に職員が参加したり、日常生活において入居者に対する不適切ケアについて話し合いなどを行っている			

グループホームことぶき ユニット I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会もあり、必要と思われる利用者にアドバイスを行いながら支援していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時においては不安や疑問が生じない様、重度化における退居後の支援の行う		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時には常に問いかけ、意見、要望があれば速やかに対処、改善している	利用者の意見要望は日常の会話から把握している。家族には訪問時や家族会(推進会議と同じタイミングで開催)で話し易い雰囲気作りをし、意見や要望は「周知ノート」に記入して速やかに対処している。意見箱の設置もある。また、苦情申し出先第三者機関を明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議他、日常業務において職員の意見など話し合う機会を設け、職場環境づくりに努めている	職員の意見や提案は、職員会議や毎朝のミーティング、代表者の個人面談で把握している。改善事項は、提案を受けて速やかに対処するようにし、サービスの向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の意見を重視しながら常に向上心を持って働ける様な就業環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、職員が参加出来る機会を確保し、研修内容を周知し、全員が共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の施設見学、行事などに参加し意見交換などを参考にし向上の為に反映させている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いや不安を受け止め、常に要望を聴きながら行動を見守り信頼関係を築いている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が何を困っているのか、しっかり受け止めながら関係を築いていく事に努める			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境になじんでいける様に趣味などを把握し、外部への参加も提案しながら可能なサービスに繋げている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の時お茶入れ、おしぼり配り、食後の食器かたづけを職員と一緒にやっている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に状態を伝えながら常に要望を聞き絆を大事に考えている、			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人友人に行事に参加して頂いたり、電話を繋いだりなじみの場所への外出支援も行っている		馴染みの店に行ったり、馴染みの美容師に来てもらったり、花見や地域の祭り、ふれあいサロンに参加し大切にしてきたこれまでの関係が途切れないよう支援している。今年はコロナ禍で保健所の指導を受けながら美容師に来てもらっているが、それ以外は自粛している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について、職員も会話に入ってその場の雰囲気や和ませる			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後のご家族にも行事の案内をして気軽に参加出来る様にしている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物希望などには急な時間で無い限り、同行をして叶えている。映画の希望にも、映画館に他の入居者も誘って、同行をして鑑賞している。	入居時の聴き取りなどから利用者の生活歴を把握している他、日々の生活の中での会話や関わりから思いや意向を理解し職員間で共有している。困難な場合は表情やしぐさから汲み取り本人本位に検討している。食材を切りたい利用者に包丁を持ってもらっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などからこれまでの環境を把握し、公民館活動に参加されていたなら続けて行ける様に支援している			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	手伝いの好んでいる方には率先してお願いをしている。有する力を把握して包丁作業にも取り組んでいる			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のケアのあり方、関わり方について、カンファレンスで話し合っ、介護計画を3か月毎に作成している	介護計画は利用者や家族の意見、要望、職員の意見を取り入れて3か月に1回モニタリングを実施し、6か月で見直しをしている。状態変化時にはその都度見直しを実施し確認印をもらっている。常に利用者に適した計画となるよう努め、職員間で共有しケアの実践に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートで記録をし、情報を共有しながら、身体介護については実践研修を行っており、介護計画の見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の葬儀などに、送迎をし同席参列をしたり、家族との食事会など送迎をしその時を柔軟に支援している			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の希望があれば、公民館活動に送迎参加して楽しめる様に支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望を尊重して入居前からのかかりつけ医に受診している方や、訪問診療を受けている方もおり適切な医療を受けられている	事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医や希望の病院へ受診している。訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と信頼関係を密に結び適切な支持の下医療を受けることができる。通院の支援もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化を見逃さない様に早期発見に努めながら、医師との連携を取りながら、看護師の採血などを行っている					
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関に情報を提供し、相談員とも相談しながら退院支援に備えている					
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を確認しながら、重度化や医療行為が必要となってくる段階で今後の方針を相談している	重度化に伴う意志確認書を作成し、本人や家族の意向を踏まえて早い段階から話し合いを持っている。事業所が対応し得る最大のケアについて家族に説明を行い方針を共有しながら取り組んでいる。また、話し合いの都度確認印をもらっている。				
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は研修など受講して緊急時の対応に備えている					
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対して避難訓練を定期的に行っており、職員が行動出来る様に備えている。 避難時に近隣住民に協力を依頼している	コロナ禍により消防署職員の立ち合いがないが、昼夜想定で避難訓練を年2回実施している。スプリンクラーや火災報知器等の設備点検を実施すると共に非常用食料1週間分の備蓄をしている。災害時の地域との協力体制ができているが、コロナ禍で自粛している。一時避難場所は近隣小学校がとられている。	災害の発生時に備え、食料や飲料水、懐中電灯等の備蓄だけでなく、発電機や暖房等を準備し、備蓄品リストを作成して点検日を定め、食品等消費期限があるもの、燃料については定期的な補充を期待する。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の以前の過ごし方による行動、会話を尊重して寄り添っていく。	1人ひとりの人格を尊重するために利用者の尊厳を傷つけない言葉掛けをしたり、名前は「さん」付けだが家族の要望で「ちゃん」付けで呼んでいる利用者もいる。利用者の気持ちを汲みながら、さりげないケアを心掛けている。職員会議やミーティング等で接遇について話し合い情報を共有している。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活必需品の買い物希望に対しては、同行して預り金から自分でレジ支払を行っている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝までの時間で一日の流れに沿って声掛けは行うが、部屋で過ごす事や個々のペースに合わせて過ごしている。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に好みの服を着ており、外出時の身だしなみなども声掛け支援している。					

グループホームことぶき ユニット I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を手伝って頂き、食べたい物を聞きながら献立に加える。(かぼちゃ煮・ラーメンなど)	調理の盛り付け、片付けを職員と一緒にいき、食事の楽しみを支援している。職員と利用者が食卓を囲みながら楽しい雰囲気食べられるよう支援している。利用者の希望を献立に盛り込んだりする等食事の支援をしている。外食で回転寿司を利用することもあるが、今年はコロナ禍で自粛している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	減量の方や多めの方の調整をして体調に合わせて支援している。水分チェック表で管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理の指導と、訪問歯科の検診を定期的に受けている。毎食後の口腔ケアは声掛けと介助で行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けをし移動の都度トイレ誘導を行っている。習慣にしており、トイレ排泄を促している。	トイレへの誘導はさりげなく、自尊心を傷つけないように配慮しながら支援する。排泄管理表で1人1人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をチェックしながら、歩行運動、飲み物、フルーツなどの配慮をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当日の体調を見てお湯の温度、希望を聞きながら実施している。	入浴は基本週2回だが希望に合わせていつでも入れるように支援する。入浴を拒む人はいない。1階の介護使用の浴室と2階の家庭的でゆったりした浴室を選んで入浴することができる。一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるようにしている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを大切に日中の活動を重視して、夜のよい睡眠につながる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示のもと、ご本人に目的を説明して服用している。症状の変化には、再度医師の指示をあおぐ。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の持っている力を存分に活かして、喜びをもって行える様にそれぞれの役割を配慮しながら支援している。		

グループホームことぶき ユニット I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々に、天候に合わせて戸外に出かける様になっている。	年間計画を立て花見や紅葉狩り、クリスマス等を行ったり、公民館での月1回のふれあいサロンにも参加したり、日常的に散歩や買い物に出たりしていたが、今年はコロナ禍により自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物要望の時には、職員同行で行き、レジ会計はご自分で支払をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	夫に手紙を書いて出したり、返事を一緒に読んで雰囲気を楽しんでいる。兄弟姉妹などに電話の要望があれば相手に繋いでから説明をして話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼フロアに座って他者と会話をし和んでいる時には、職員も会話の仲介をしながら楽しめる様になっている。季節毎に切り花を生けたり(十五夜飾りなど)して工夫している。	共用の空間は温度湿度に配慮し、清潔を保ち、利用者が過ごしやすい環境づくりに努めている。また各季節に合わせた手工芸品や行事の写真等を飾り季節感を出している。お琴や紙芝居、民謡のボランティアが来訪し楽しいひと時を提供していたがコロナ禍で自粛中である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の娛樂室があり、くつろいで過ごせる様になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた家具や寝具を使用して安心出来る様になっている。	使い慣れた家具や寝具が配置され、家族の写真や身の周りの品、仏壇、テレビ、携帯電話などを持ち込み、居心地良い居室になっている。また、トイレや洗面所が設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る事と出来ない事を見極めて、介助の方針を工夫して支援している。		